

令和6年度 学校評価結果

実施月:令和7年 5 月

【1 教育理念・目的・目標】

教育理念・目的・目標は一昨年度より教務室・教室・掲示板に掲示し、今年度より一層目立つように文字を大きくし、フレームに入れ提示するようにした。その効果があり、学生による学校評価である「学校の教育理念・目標を明示しているとともに、その内容は一貫性を持っている」「教育理念・目標はわかりやすく、学習の指針になるように具体的に示している」の評価は約96%の学生が「とてもそう思う・そう思う」と評価しており効果は出ている。また、教員からも以前より教育理念・目的・目標を意識するようになったと評価されている。

昨年度は新カリキュラム作成後に就職した教員が多く、教員の教育理念や教育目標の理解を深めることを課題としていたため、夏季休暇中に教育理念・教育目標の勉強会を行い理解を深めるようにした。

しかし、教員の入れ替わりは2名退職、1名入職のみであったにも関わらず、全ての評価点は昨年度より大幅に下がっている。

これは、教員の教育理念・目的・目標に対する理解が不足していること、評価する姿勢が影響していると考えられる。その為、引き続き教育理念・目的・目標についての勉強会を行うとともに、自己の教育活動の指針になっているかの評価をする機会を持つようにする。

【2 教育課程目標】

昨年度は教育課程目標のポイントは5)以外はすべて上昇していた。しかし、今年度はすべて低下している。

この要因としては、新任教員の割合が多くなっており、授業を創り上げることで精一杯であり、教育理念・教育目的・教育目標との一貫性や教育目標の設定意義まで深く考えることができていない為であると考ええる。

来年度は、各自の授業で教育目標を見直すよう取り組んでいく。

【3教育課程経営】

教育課程は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の各分野の考えを作成し、シラバスに具体的な内容は明示している。また、新カリキュラムよりその科目のねらいや設定理由を明示している。

今年度は各担当教員間で教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行うため話し合いができていない。来年度に取り組んでいくことを課題とする。

今年度は看護技術マトリクス・疾患看護マトリクスの見直しを行っている。教員個々が担当する科目内容だけでなく、科目全体の内容との関連性を考え、単元構成できるように引き続き取り組んでいく。

教育計画は、入学時に配布するシラバス・便覧により単位履修の方法とその制約について明示し、単位履修の支援を行っている。

また、科目の配列は、単位履修と本校の期待する卒業生像に向けた配列になっているが、外部講師や臨地実習の都合により、前後してしまう。そのことによる単位修得上の問題は生じていない。

単位認定の基準は、筆記試験、レポート等で評価を行い、合格基準は明示している。大学、専門学校等で習得した単位は、シラバスの内容より合致性を確認のうえ既修単位認定を行っている。

単位認定の基準は、出席時間数について授業時間・試験実施時間の計算など、詳細についての記載が不十分であるため2025年度の便覧より詳細に明記する。

教員個々に担当領域の教授方法を追求し研究する努力を行っているが、教員全体が研究を積極的に行うような組織風土には至っていない。また現在教員数が8人(1名不足)で、実習引率と講義を行うことで精一杯な状況にあり、研究活動を行うための時間は十分とは言えないため、研究に取り組む意欲にも影響している。

研修については、研究費を教員1人あたり7万円の予算を確保しており、研修や学会に参加するよう促している。来年度も引き続き三重県看護教員継続研修だけでなく、学会やその他の研修に積極的に参加するよう促していく。

臨地実習施設とは、定期的に実習指導者会議を開催し、当校の実習における考え方、方針、教員と指導者の役割、実習指導要綱の説明を行い、学習を支援して頂けるようにしている。実習後の指導者会議では、実習評価を行いその改善策も検討している。

教員は勤続年数を重ねるにつれ、病棟指導者との協働体制がとりやすくなっていると感じている。来年度は新人教員が3名いるため、実習指導方法の指導を行うとともに、引き続き病棟指導者とのコミュニケーションを積極的にとっていけるよう支援していく。

今年度、複数の教員の実習指導方法について実習施設や学生から複数回にわたり苦情が寄せられた。このことに対しては、該当者に事実確認をしたうえで、フォローアップを実施している。引き続き、フォローアップ体制を整え、効果的な実習指導ができるよう支援していく。

【4 教授・学習・評価過程】

授業内容は、当校の教育理念・教育目標との一貫性を意識して設定しており、その内容は看護学を構成する科目や単元、当該授業の意図にそった教育内容となっている。

今年度は教務会議で各科目ごとの授業内容での重複や教授漏れを看護技術マトリクスや疾患マトリクスを活用し再度見直しを行い、授業内容の再検討を行った。今後も定期的に行っていく。

授業の履修形態は授業の内容に応じた形態を選択しており、その方法は、シラバスに明示し実践している。

専任教員の授業ではアクティブラーニング、シミュレーション教育に積極的に取り組んでいる。しかし、学生の臨床判断能力を鍛えるには不十分である。今後更なる授業内容・方法の工夫を行っていく。

教員間の授業における協力体制としては、昨年度から教員に協力の必要な科目とその日程、人数を確認し、年間スケジュールを提示ようにした。そのことで、自ら協力依頼する必要がなく、また平等に協力が行え、依頼する教員のストレスは軽減したとともに、依頼された教員の学習にもつながっている。

シラバスは、入学時に提示しており、科目毎の学習目的、学習内容、課題を明示し、学生が理解でき、興味関心がもてるように工夫している。

学生はシラバスの内容の理解、適切な時間割については95%以上が「とてもそう思う・そう思う」と評価している。

評価方法は、授業では、レポートや筆記試験による評価、学生からの評価はポートフォリオシステムによるアンケート評価を行っている。

ポートフォリオでのアンケート入力、Google formsを使用し、今年度より終講試験が終了するたびに入力するようLINEで促し、終講試験後に入力する時間を設けるようにしたことで、ほぼ全員の結果を得ることができるようになっている。

実習評価については、基礎看護学実習で最終評価だけでなく、中間評価を取り入れるようにしており、学生の自己評価との差異は少なくなっている。今年度より見学実習以外の実習全てで中間評価を取り入れていく。

授業評価から改善点を明確にすることは教員間で共有できておらず、共有する方法を考え取り組

んでいく。

単位認定のための評価は評価基準を便覧・シラバスにより明示しており公平性はある。また、単位認定に関わる実習評価は、教務会議で検討し、公平性を保持するようにしている。

【5 経営・管理過程】

受験者数の減少、物価高騰により養成所の財政基盤は厳しく、どのように確保していくかは、長期的に検討を行い対応していくことが必要である。

今年度は学生ホールのリフォームを行い、より学生が学習しやすく、且つ学生同士のコミュニケーションがとれる環境を提供する努力をしている。

備品購入については、購入スケジュールを作成し、学習・教育の質が維持できるよう計画的に更新している。

チューターによる学生生活の支援、専門のカウンセラーによる面談を行い、学生の学校生活の支援を行っている。

学生の成績、単位修得状況を、学年末時点の成績状況を保護者へ通知している。

広報活動は、式典の新聞への掲載、高校訪問、進学ガイダンスイベントへの参加、学校ポスターの配布等を行っている。

今年度は新たに学校紹介ビデオを作成しており、来年度より活用していく。

一昨年度より自己点検・自己評価を実施するため、学校評価に関する実施要綱を作成した。教員からは評価を定期的に行うことで自己の課題が明確になり、自己研鑽につながった、という意見が出ている。評価体制についての運用を進め、よりよい学校運営をおこなう。また、自己評価だけでなく、他者評価ができる体制も整えていく。

【6入学】

令和2年度より入試委員会を発足し、委員会で前年度の入学者選抜方法の問題点を明確にし、選抜方法を検討している。

入学者選抜は、選抜基準を定め、教員による合否判定会議、運営委員会による合否判定会議により公平に行っている。

受験生に対しては、受験成績の開示請求を募集要項に記し請求に応じている。

現在、受験者数は減少傾向で、特に一般入試による入学者の確保が厳しい状況にある。入学者選抜方法は、入試委員会で前年度の入試の評価を行い、次年度の入試選抜方法の検討を行っている。今後も入学者状況を分析し、妥当性のある選抜方法を選択していく。

受験者確保に対しては、南勢地区、愛知県まで募集活動を拡大している。また、オープンキャンパスの開催を2日から3日へ増やし、高校への進学ガイダンスや業者による進学説明会等に積極的に参加している。それらの取り組みから、三重県内の看護学校は定員割れしている学校が多い中、当校は定員割れすることなく学生の確保はできている。今後は、学生確保に向けて具体策を検討し更なる取り組みを行っていく。

【7卒業・就業・進学】

一昨年度よりホームカミングディで前年度卒業生の臨床現場での状況把握を行っている。今年度、卒業生(前年度卒業生以外も含む)の実態調査を行う体制を整えた。来年度よりこの調査を行うとともに、病院の新人教育担当者等から卒業生の状況の聞き取りを行い、学校の教育活動へ反映できるよう取り組んでいく。

【8地域社会／国際交流】

地域貢献に関しては、エコキャップ活動、学校周辺地区の清掃活動を行っている。また、地域の中学校2校の職場体験学習を受け入れており、地域社会への貢献は微力であるが行えている。これらの活動は引き続き行っていく。

地域の特徴を理解するという点では、『四日市学』という科目で、フィールドワークを行い、四日市地域の特徴を学習できるように取り組んでいる。しかし、地域社会の諸資源の学習・教育活動への取り入れは不十分である。今後検討していく。

「国際看護」の科目で、JICA(海外協力隊)で活動された看護師より講義をいただく等の工夫を行い、国際看護の視野を広げている。また、現在外国人留学生入試を設け、外国人留学生の入学を1名受け入れている。

帰国学生の修得単位の変換、留学や海外において看護職に就くことを希望する学生の英文での卒業証明書、成績証明書の作成は行っており、対応する体制はある。

【令和7年度 取り組むべき課題】

1. 学生の教育理念・目的・目標に対する理解を深めるための勉強会を引き続き行う。また、教育理念・教育目的の達成に向けて、領域担当毎に担当科目の教育目標・教育内容の見直しを行う。
2. 各科目の授業内容での重複や教授漏れの点検を行うとともに、看護技術マトリクスや疾患マトリクスを活用しての見直しを引き続き行う。
3. 新任教員2名による授業について、授業の組み立て・授業方法についての指導・支援を行う。
4. 見学実習を除く全ての実習で中間評価を取り入れ、学生の実習の学びの充実化を図るとともに、評価の客観化を図ることで、学生―教員間の評価の乖離を少なくする。
5. 働きやすい教育環境については、教務会議後の茶話会の開催を行う、季節休暇中に参加方式で昼食を一緒に取るなどの取り組みを行うことで、職員間のコミュニケーションを深める。
6. 他科目の理解を深めるため、また科目担当教員が実習できないときのフォロー体制を作るために、新任教員を除く専任教員は、関連する他科目の実習を担当する。
7. 教員による授業の自己評価はしているが、他者評価は新任教員以外行っていない。これについては、教員の授業能力の向上を図るだけでなく、各領域を超えての教育の連携が行えることにつながるため、令和6年度は取り組めなかったが、取り組みを行っていく。
8. 上記6の内容に対して、他科目を受け持つことに対する教員のストレスがあると考えられる。そのストレスを緩和するためのサポート体制などの手段を考え実施していく。
9. ホームカミング日の参加者の状況やアンケート結果は病院側へフィードバックしていない。今後は、病院側にも必要な情報をフィードバックするようにしていく。